

最新事情

大学編①

スポーツで培った力を伸ばし、生かす
就職支援プログラム

平成国際大学

(埼玉県加須市)

平成国際大学は平成8年に開学した法学部単科の大学である。学生の9割近くが男子だが、1割強の女子学生も、積極的にリーダーシップを取るなどして存在感を見せているという。同学では、学生の6割以上が運動部に所属しており、全国で好成績を残している。スポーツで培った力を、どう就職に生かしていくか。同学での就職を全面的にサポートしてきたキャリアセンターの取り組みについてお話を伺った。



キャリアセンターの
柴崎武課長補佐

小規模大学の強みを生かし 学生一人一人をサポート

のどかな田園地帯に広々としたキャンパスを持つ平成国際大学。同学では、法律の知識をベースに、社会に柔軟に対応できる職業人の育成を目標としている。1学年300名弱と少人数だが、一つの特徴は、半数以上が運動部に所属し各種競技の全国大会、世界大会で活躍していることである。結果を出すことを目標に厳しい練習を乗り越えてきているだけあって、元気で打たれ強く、上下関係やチームワークが身に付いている学生が多いという。その人間性は就職においても高く評価されているようだ。

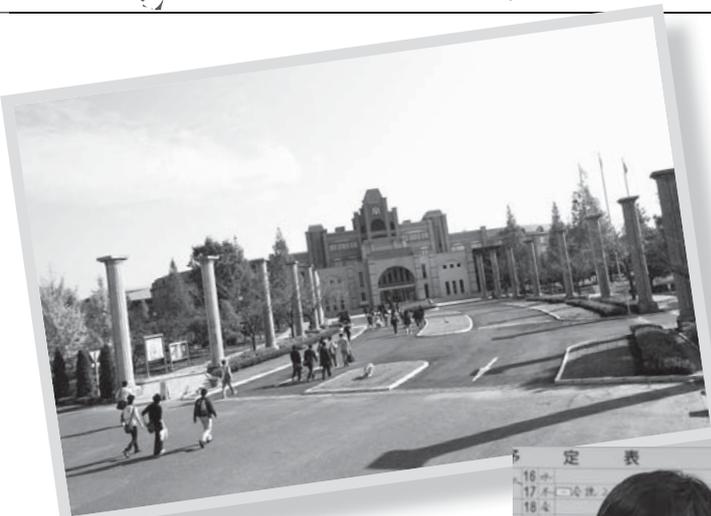
同学キャリアセンターは、開学以来、学生の

就職支援に全力を注いできた。

「最初に相談に来るように言っても、学生は面接前日になって急に不安になったりするもの。そんな時に、いつでも相談に乗れるよう職員の連絡先を教えています。休日でも、希望があればマンツーマンで面接練習を行うことも。職員としては決して楽ではありませんが、少規模だからこそできる。その強みを生かして学生の就職を後押ししています」。

こう話すのは、同センターの柴崎武課長補佐だ。「キャリアセンターの職員は現在4名。学生の顔と名前、性格は、皆がほぼ把握しています。それぞれの希望に合わせてピンポイントで企業を紹介できるのは強みの一つです。その代わり、単科大学の弱みは、やはりネットワークが乏しいこと。そもそもOBの数が少ないですし、就職先も限られていますから、一流の大企業などには、橋渡しするのが難しい。ただし、私たちとしては埼玉・東京の優良中小企業に学生を送り込みたいというのが目標ですから、それほど大きなマイナスははありません。このような強みと弱みを把握した上で、より充実した就職支援をするためにはどうすればよいか。他大学の視察などを通して、試行錯誤してきました」(柴崎氏)。

卒業生の進路は、サービス業、卸・小売業を中心に、警察官や消防官、市役所・県庁の職員といった公務員など幅広い。入学時点で、7割程度の学生がすでに明確な進路を定めている



平成国際大学
伸び伸びとした緑豊かな
キャンパス

1年生～4年生まで、学年に応じて就業意識の育成、就職活動の支援をする「就職支援プログラム」を充実させてきた



そうで、1年次の最初にオリエンテーションとテストにより「警察・消防」「市役所・県庁」「一般企業」と、希望の就職先別にクラスを分ける。「警察・消防」「市役所」クラスは少人数の専門クラスにより、1年次から学ぶべき内容や資格取得などのサポートを行っている。

就職支援プログラムで 基礎力と意識を磨く

公務員以外を目指す学生に対しても、就職の支援は充実している。それが平成12年に開始した「就職支援プログラム」である。

このプログラムの特徴は、キャリアセンターの主催でガイダンスや自己分析、筆記・面接試験対策などの講座を開くだけでなく、正課の教養教育科目として「キャリア支援授業科目」を多数導入してきたことだ。キャリア支援授業

科目には、基礎学力・一般知識の修得を目指す「基礎科目」と、進路観・職業観を醸成し、ライフスタイルをデザインするとともに、産業・経済の動向、各業界の現状等の理解を目指す「実践科目」がある。「選択科目ですが、参加率は年々上がっています」と柴崎氏。その言葉通り、1・2年次の「キャリア形成と進路」は、多いとまで200～300名が受講するという。「キャリアセンターから一方的に説明するよりも、自ら知りたい、学びたい」と思って来てくれた方が記憶に残りますし、授業で一度聞いていれば、その後のガイダンスなどでも関連して思い出すはず。聞く態度が明らかに違うのを感じます」（柴崎氏）。

一度説明したくらいでは、なかなか学生の意識付けには至らないものだ。繰り返し伝えることの大切さが実感できる言葉である。

実践科目のうち「キャリア形成と進路」、2～4年次の「就職実践演習Ⅰ・Ⅱ」を担当する講師の吉村英司先生は、それぞれ目標を次のように説明する。

「『キャリア形成と進路』では、働くことの意味付けが主な内容です。時代の変化とともに働くために働くから、自己実現のために働くへと変わってきましたが、働くことの真の意味は社会貢献です。物やサービスを作る、売る、そして税金を払う。世の中にはいろいろな仕事、働き方があり、学生自身にもさまざまな可能性があります。3万種を超える職業があり

ますが、その中からどれを選ぶのか、どうやって選ぶのか学んでもらいたいと思っています。『就職実践演習』は、就職活動に必要な基礎力を伸ばすのが目標。エントリーシートなどの書き方も指導しますが、ディスカッションや面接の練習を通してコミュニケーション力を磨いてもらう。その中で自分に足りないものや、自分のよいところを自覚させるのです。そうすると、マイナスからプラスになる学生もいれば、プラスからさらにプラスになる学生もいる。一様ではないですが、それぞれ着実に力を付けていきます」。

吉村先生は、これらの授業の中で意識的に、実際に出会った人々や、学生時代から今まで読んできた本の中から古今東西の哲学者や経営者、成功者などの名前を出し、個々の人生について具体例を挙げて説明するという。



年2回、学内で開催する合同企業説明会には埼玉県・東京都を中心とした企業約120社のほか、警察・消防・自衛隊などの官公庁も。[OB・OGがいる場合は、できるだけ直接話をしてもらいます]と柴崎氏



リーダーズ研修の運営にも携わった
大学祭実行委員長の大家昌康さん



7月に開催したリーダーズ研修では、吉村先生による「キャンパス・ビジネスマナー」と題した講演も。学内各団体のリーダーが、社会人と接するためのマナーについて学んだ



「一人の人間が実際体験できることはそう多くありません。だからこそ、他人の経験から学べるようになってほしい。授業の中でもそれを意識して話しています。」(吉村先生)。

骨太な、生きる力を持った 社会人になってほしい

7月21日、海の日。学友会や大学祭実行委

「就職支援プログラム」でビジネスマナーや就職活動の心構えについて指導する、講師の吉村英司先生



員会、各クラブ・同好会などの代表者を対象にリーダーズ研修が開催された。参加したのは約40名の学生。授業などへの取り組み姿勢を充実させると同時に、同学の代表として恥ずかしくない学生らしいマナーを身に付けることを目的に、毎年テーマを変えて開かれている。

今年度は、吉村先生がビジネスマナーについての講演を行った。クラブ内でのあいさつと社会人に対するあいさつとはマナーが違うこと、生き生きとした自分を表現するにはコミュニケーションと常識力、そして何よりも意欲が大切であることなどを話し、学生たちはメモを取りながら熱心に耳を傾けた。

この研修の運営委員でもあり、大学祭実行委員長を務める3年生の大家昌康さんは、講座の感想を次のように話してくれた。

「以前は野球部に所属していたので、上下関係やあいさつはきちんとしていた方だと思いますが、吉村先生のお話を聞いて、クラブ内でのマナーだけでは不足なのだと思えました。初対面の人に対しては気を付けているつもりでも、慣れてくるにつれ、崩れていってしまいます。今は大学祭実行委員長として業者の方やアテリストの方々、地域の方々と接する機会が多いのですが、言葉遣いが正しいかなと不安になることもあります。教員を目指している中で、本番の面接では自然にできるようにこれからしっかりと備えたいと思いました。」

研修の参加者の中には、吉村先生の授業を選

択した学生の姿も。「私が指導して秘書検定を受験した男子学生が、就職の内定をもらったと報告してくれました。うれしいですね。教えたかがありました。まだ公務員試験が残っているのですが、ぜひ頑張ってください」と、吉村先生は笑顔を見せる。

キャリアセンターでは、学生の資格取得も支援している。秘書検定もその一つ。「常識やエチケットマナーが身に付けられると、男子学生が2級、準1級を積極的に受験しています」と柴崎氏。毎年数名、数十名の学生が受験しているという。

「きちんと物事を考え、ぶれない。骨太で生きる力がある。何があっても自分の力で乗り越え、社会の人の役に立てる。そういう人になってもらいたいと思っています」。学生への期待をこう語る柴崎氏。日々の苦労は、すべてそこにつながっている。

「それを実現するには、キャリアセンターだけでは手が足りません。学生はもちろん、就職先である企業にも、学生の就職に人一倍関心を持っていて保護者の方々にも対応しなければならぬからです。そのため、一緒に支援に参加してくれる職員、教員の輪を少しずつ広げてきました。目指してきたのは、全学を挙げてのサポート。ここまで来るのは大変でしたが、今はだいたい形になってきています」。柴崎氏はじめ、キャリアセンターの苦労はしっかりと実を結んでいるようだ。